

## 第2回 静岡市オクシズ地域おこし計画推進協議会次第

1 開会

2 自己紹介

3 会長の選任

4 議事

(1) 「第5次静岡市総合計画」と

「静岡市オクシズ地域おこし計画」の概要について

(2) 「静岡市オクシズ地域おこし計画」の見直しについて

地域おこし計画推進協議会 委員名簿 (R7.10.1～)

	地区	氏名	期数	備考
1	北沼上学区	坂下 成紀	2期	
2	賤機中学区	荻野 春美	1期	
3	賤機北学区	海野 吉訓	2期	
4	服織西学区	塩阪 利明	1期	
5	南藁科学区	小林 孝好	2期	
6	中藁科地区	佐藤 雅一	3期	
7	足久保学区	上村 哲代	1期	
8	松野学区	望月 五郎	2期	
9	井川学区	-		
10	大河内学区	西島 和子	1期	
11	梅ヶ島学区	市川 慎悟	3期	
12	玉川地区	白鳥 敏夫	1期	
13	清沢地区	瀧脇 典世	1期	
14	大川地区	勝見 恒利	1期	
15	庵原地区	塚本 将人	2期	
16	小島地区	山本 勇治	1期	
17	両河内地区	望月 雅世	2期	
18	由比入山地区	佐野 英俊	1期	

オクシズ

令和7年度  
静岡市オクシズ  
地域おこし計画推進協議会

# オクシズ

静岡市オクシズ地域おこし計画とは

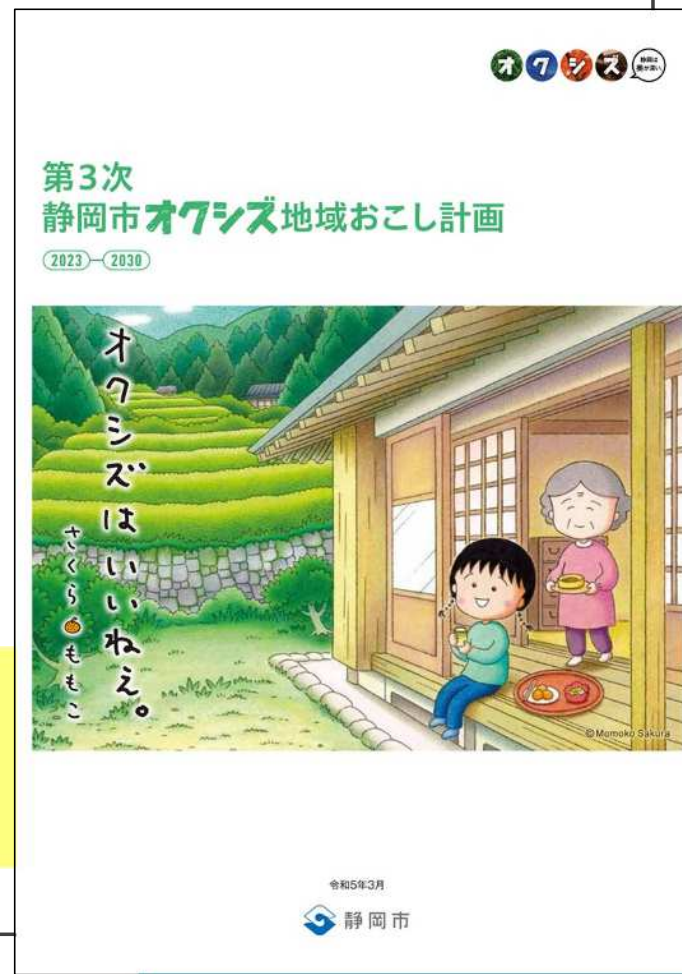
静岡市オクシズ地域おこし条例に基づき、市民・事業者・市が一体となり、オクシズの豊かな自然環境を保全し、地域資源を最大限に活用することで、地域社会の継続的な発展を目指すための計画です。

計画で定める事項

- (1) オクシズに関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定める
- (2) オクシズのために市民、事業者及び市が配慮すべき事項

オクシズ地域おこし計画推進協議会の所掌事務

- ① 計画の進捗状況の評価に関すること
- ② 計画における各事業の進行管理に関すること
- ③ 計画の推進及び見直しに係る意見要望等に関すること



# オクシズ

計画の基本理念（静岡市オクシズ地域おこし条例に基づく）

- 1 オクシズの森林及び農地の有する公益的機能並びに地域資源による恩恵を市民が等しく受けていることを認識し、その重要性を理解し、自然と地域社会との調和を図りつつ、オクシズの継続的な発展を目指さなければならない。
- 2 オクシズの継続的な発展のため、地域住民を主体として、自律的に集落が活性化されなければならない。
- 3 オクシズに地域住民が暮らし続けることができ、地域住民が増加する環境が整備されなければならない。
- 4 オクシズの森林及び農地の公益的機能が維持されなければならない。
- 5 オクシズの地域資源が次の世代に継承できるように適切に活用され、及び保全されなければならない。

# オクシズ

## 静岡市オクシズ地域おこし計画の歩み

2010年度～2014年度

「静岡市中山間地域総合振興計画」（2010～2019）を策定し、中山間地域の愛称を「オクシズ」として積極的な情報発信を行うなどしました。

2015年度

「静岡市オクシズ地域おこし条例」の施行

2015年度～

「第1次オクシズ地域おこし計画」（2015～2018）、「第2次オクシズ地域おこし計画」（2019～2022）を策定。計画の実効性を高めるために、静岡市総合計画の前期・後期に合わせて行った。

市民意識調査において「オクシズ」の認知度が80%を超える

2023年度～

「第3次オクシズ地域おこし計画」（2023～2030）を策定。静岡市総合計画において、「オクシズの森林文化を育てるまちの推進」が重点政策となる。これを踏まえ、「生活利便性の向上」「雇用と仕事の確保」に向けた見直しを行った。

# 第3次 静岡市オクシズ地域おこし計画 概要 (R5~R12)

将来像 山村と都市が共生・共育し、持続的に発展するまち静岡



方針 I 保全と活用の両立	<p>目指す姿『地域資源を守り、活かす 魅力あふれる オクシズ』</p> <p>オクシズは、豊かな自然環境やお茶、ワサビ、木材などの農林産物、温泉、滝などの名勝や観光地などの多様な資源を有している。 また、農地や森林は「水源かん養機能」「山地災害防止機能」「レクリエーション機能」など市全域に好影響を与える多面的機能を有している。地域資源を「保全」することで、その機能を最大限発揮させるとともに、魅力を磨き、観光客の増加や農林水産物の販売促進などの「活用」に繋げることで、雇用や仕事を確保する。</p>	<p>1 保全</p> <p>①農地や森林等自然環境の維持・保全の推進 ②南アルプスユネスコエコパークの保全 ③農林道や作業道などの整備と維持管理 ④地域における野生鳥獣被害対策の推進</p>	<p>成果指標 森林整備面積 700ha以上/年</p>	<p>雇用と仕事の確保</p> <p>重点プロジェクト</p> <p>「雇用と仕事の確保」「生活利便性の向上」に特に寄与する施策を重点プロジェクトとし、4次総で目指す姿をより効果的に実現する。</p> <p>1 泉質の良い温泉など地域資源を活かした交流の活発化 <b>グリーン</b></p> <p>温泉・南アルプスなど、地域資源の魅力を活かすため、資源の磨き上げや道路整備などによるアクセスの改善、情報発信等を行う</p> <p>【事業例】</p> <table border="1"> <tr> <td>南アルプスユネスコエコパーク (奥大井)</td> <td>梅ヶ島温泉郷(安倍奥)</td> </tr> <tr> <td>・環境保全と自然を楽しむ観光の確立</td> <td>・黄金の湯リニューアル ・国民保養温泉地PR</td> </tr> <tr> <td>興津川上流(西河内)</td> <td>薬科川上流(奥薬科)</td> </tr> <tr> <td>・森林公園再整備 ・自然の家整備</td> <td>・湯ノ島温泉の活用 ・民間施設との連携</td> </tr> </table>	南アルプスユネスコエコパーク (奥大井)	梅ヶ島温泉郷(安倍奥)	・環境保全と自然を楽しむ観光の確立	・黄金の湯リニューアル ・国民保養温泉地PR	興津川上流(西河内)	薬科川上流(奥薬科)	・森林公園再整備 ・自然の家整備	・湯ノ島温泉の活用 ・民間施設との連携
	南アルプスユネスコエコパーク (奥大井)	梅ヶ島温泉郷(安倍奥)										
・環境保全と自然を楽しむ観光の確立	・黄金の湯リニューアル ・国民保養温泉地PR											
興津川上流(西河内)	薬科川上流(奥薬科)											
・森林公園再整備 ・自然の家整備	・湯ノ島温泉の活用 ・民間施設との連携											
<p>2 活用</p> <p>①農水産物の高付加価値化 ②木材の利用拡大 ③地域資源を活かした交流の促進 ④振興・交流拠点の磨き上げ ⑤未活用土地や空き施設の利用促進</p>	<p>成果指標 市営温泉入場者数 20万人以上 (R12年度)</p>											
方針 II 暮らしの維持・向上	<p>目指す姿『これからも住み続けられる オクシズ』</p> <p>オクシズでは人口減少や高齢化により、移動や医療、買い物等日常生活に必要な機能へのアクセスが課題となっている。 さらに、道路や水の確保、災害対策などのインフラや、子育て・教育の環境を継続的に充実させていく必要がある。安心して住み続けられるオクシズの形成に向け、これらの課題を解決し、生活利便性を向上させていく。</p>	<p>生活利便性の向上</p> <p>1 住民サービス</p> <p>①高齢者等が安心して生活できる環境の整備 ②医療体制の整備 ③子育て・教育環境の整備・確保 ④情報通信基盤の活用</p>	<p>成果指標 R12時点の旧安倍6村と西河内の合計人口 5400人以上 ※推計人口では4864人</p>	<p>2 自家用車なしでも安心して生活できる環境整備 <b>デジタル</b></p> <p>自家用車を利用しなくても必要な機能にアクセスでき、安心して生活できるよう「移動手段」の確保と居住地付近での「生活機能提供」の強化を図る</p> <p>【事業例】</p> <table border="1"> <tr> <td>「医療・福祉」</td> <td>・大河内診療所の移転・新築 ・医療等の身近な相談体制確保</td> </tr> <tr> <td>「移動」</td> <td>・中山間地での交通のあり方検討 ・アクセス道路の改良</td> </tr> <tr> <td>「買い物」</td> <td>・移動販売を活用した買い物支援 ・オンラインでの買い物支援</td> </tr> </table>	「医療・福祉」	・大河内診療所の移転・新築 ・医療等の身近な相談体制確保	「移動」	・中山間地での交通のあり方検討 ・アクセス道路の改良	「買い物」	・移動販売を活用した買い物支援 ・オンラインでの買い物支援		
	「医療・福祉」	・大河内診療所の移転・新築 ・医療等の身近な相談体制確保										
「移動」	・中山間地での交通のあり方検討 ・アクセス道路の改良											
「買い物」	・移動販売を活用した買い物支援 ・オンラインでの買い物支援											
<p>2 生活基盤</p> <p>①安全な道路整備 ②交通手段の確保 ③災害に強い防災体制の整備 ④水の確保など定住環境の整備</p>												
方針 III 内と外からの活性化	<p>目指す姿『山村と都市が共に盛り上げていく オクシズ』</p> <p>オクシズは、自治会などの活動、近所での助け合い、伝統芸能などの地域活動が盛んに行われているが、地域活動の担い手が不足しつつある。 また、地域活性化には、企業立地やオクシズでの起業を推進するなど、新しい力を取り込む必要がある。 そのため、オクシズ住民自ら行う地域活性化とともに、移住者や関係人口、企業などの都市の力の活用することで、雇用や仕事の確保や生活利便性の向上につなげていく。</p>	<p>方針 I と方針 II を支える</p> <p>1 内発的な活性化</p> <p>①地域産業の経営基盤の強化、担い手の育成 ②地域住民主体の仕組みづくり ③オクシズに伝わる文化の承継</p>	<p>成果指標 空き家情報バンク経由での移住世帯数</p>	<p>3 木材活用の総合的な支援による循環型経済の構築 <b>デジタル グリーン</b></p> <p>川上から川下まで、切れ目のない支援策により、森林整備や脱炭素など環境保全と木材活用を両立させる 川上：林業事業の効率化、林業者への作業道や機械化 など 川下：都市部での木材利用の促進、公共施設の木質化 など</p> <p>4 総合的な鳥獣被害対策 <b>デジタル</b></p> <p>防除、緩衝地帯整備、捕獲を組み合わせた被害対策を実施</p> <p>5 移住施策の推進 <b>デジタル</b></p> <p>空き家バンク運営、空き家の確保、テレワーカーの誘致、お試し移住、地域の活動支援など総合的な移住支援策を推進</p> <p>取組に必要な視点</p> <table border="1"> <tr> <td><b>デジタル</b></td> <td><b>グリーン</b></td> </tr> <tr> <td>デジタル技術活用による課題解決・利便性の向上</td> <td>温室効果ガスの森林への固定や排出量の削減</td> </tr> </table>	<b>デジタル</b>	<b>グリーン</b>	デジタル技術活用による課題解決・利便性の向上	温室効果ガスの森林への固定や排出量の削減				
	<b>デジタル</b>	<b>グリーン</b>										
デジタル技術活用による課題解決・利便性の向上	温室効果ガスの森林への固定や排出量の削減											
<p>2 都市の力</p> <p>①オクシズの意義・役割・魅力を伝えるプロモーション ②都市住民と地域住民の交流促進 ③外部人材の活用や企業誘致の促進 ④オクシズへの移住定住の促進 ⑤環境保全活動への都市住民の協力</p>	<p>成果指標 15世帯以上/年</p>											

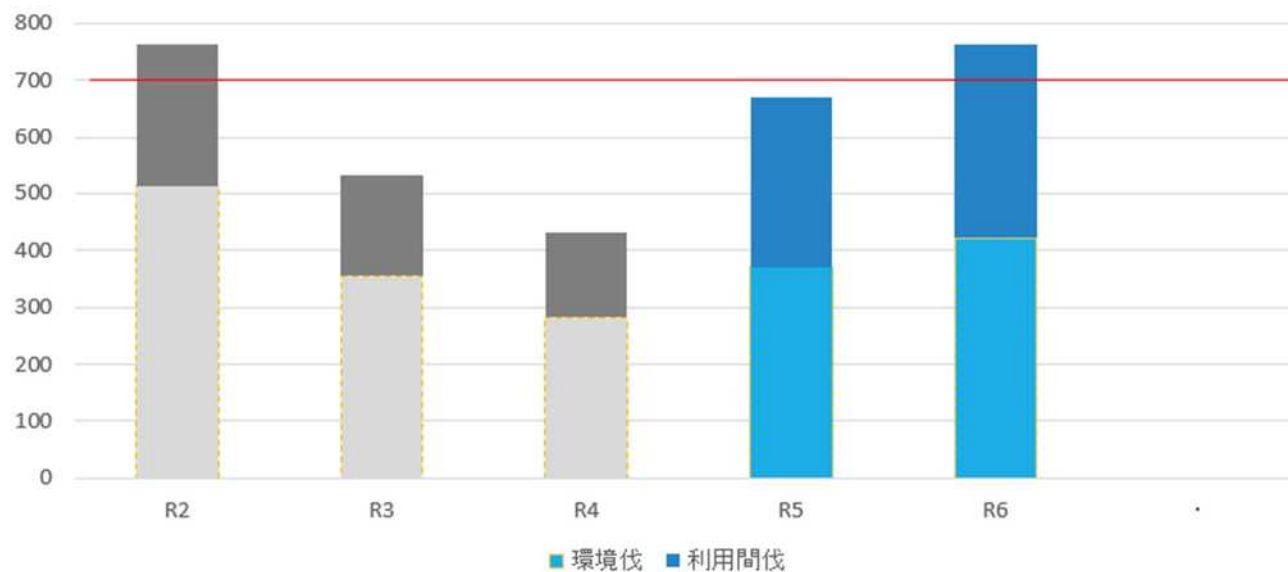
# オグシズ

成果指標

森林整備面積700ha以上/年

現時点

762.63ha(R6年度)



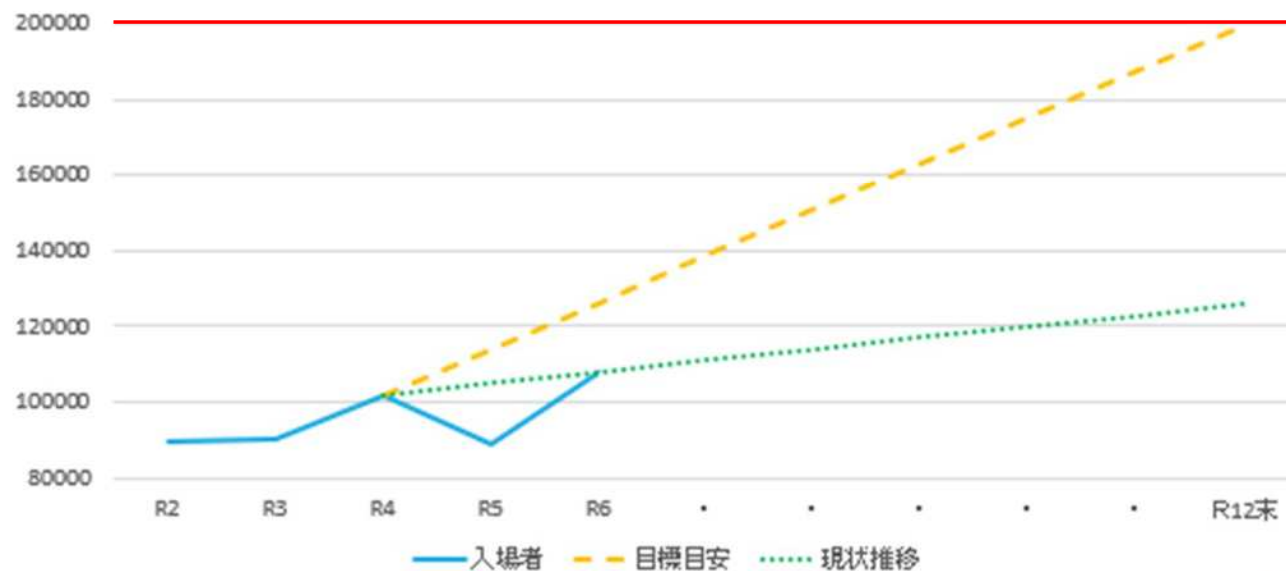
# オグシズ

成果指標

市営温泉入場者数20万人以上(R12年度)

現時点

10万7903人(達成率53.9%)



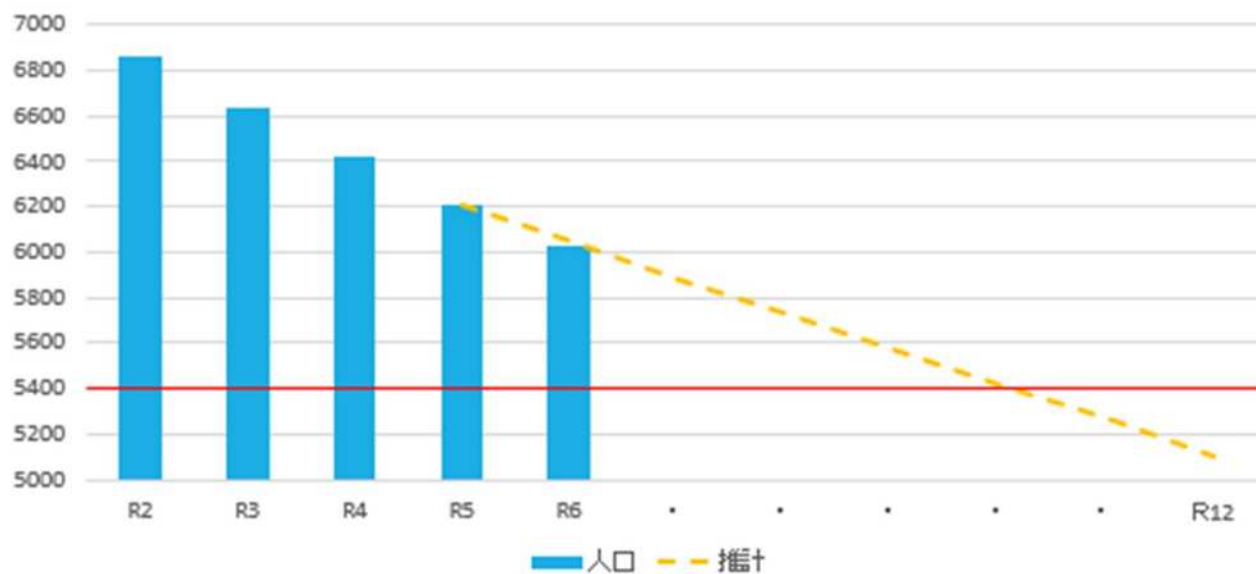
# オグシズ

成果指標

R12時点の旧安倍6村と両河内の合計人口5400人以上

現時点

6,026人

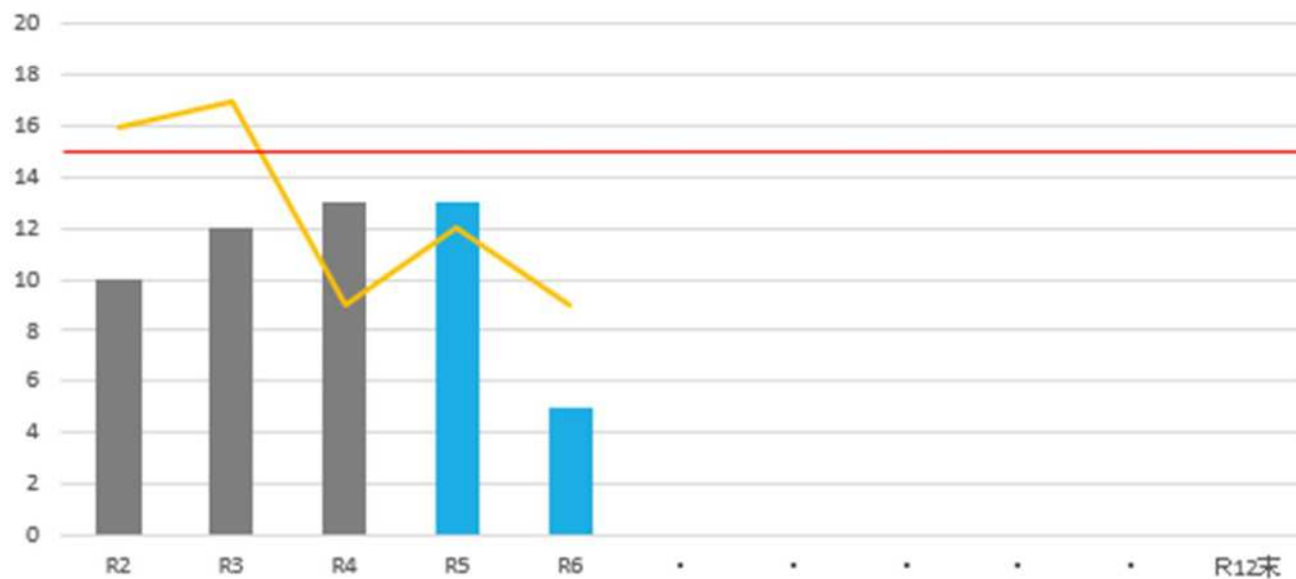


英区	R4	R5	R6
人口	▲2007	▲2253	▲1521
自然増減	▲1945	▲2094	▲2234
社会増減	▲62	▲159	713

# オグシズ

成果指標  
現時点

空き家バンク経由での移住世帯数 15世帯以上／年  
(R5)13世帯 (R6)5世帯



# オクシズ

## 静岡市の他の計画との関係

静岡市総合計画

静岡市基本構想

静岡市基本計画

実施計画

## 個別分野計画

静岡市オクシズ地域おこし計画

静岡市産業振興プラン

静岡市農業振興計画

静岡市茶どころ日本一計画

南アルプス管理運営計画（静岡市域版）

静岡市環境基本計画

静岡市教育振興基本計画

オグシズ

第5次静岡市総合計画について

## 第5次静岡市総合計画の概要

### 基本構想の概要

〔まちの将来像や市政運営の方向性を定めるもの〕

**目指すまちと暮らしの姿として「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を掲げます。**

人々が安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるよう共創の市政運営を行えば、このまちは、人々が住み続けたい、移住して住みたいまちになります。

その結果、「世界に輝く静岡の実現」へとつながっていきます。

### 基本計画の概要

〔基本構想を実現するために、何をどのように実行していくべきかを定めるもの〕

#### (1)役割

静岡市が直面している様々な課題を解決するためには、行政の力だけではなく、社会全体の力による「共働・共創」が不可欠という認識のもと、行政が、市民・地域社会・企業・教育機関などとともに、何をどのように実行していくべきかを示します。

#### (2)区域

対象とする区域は、静岡市の行政区域です。加えて、静岡県中部地域の中核を担う政令指定都市として、中部地域全体への貢献も視野に入れていきます。

#### (3)期間

2026年度から2035年度までの10年間とします。

#### (4)構成

「静岡市の特徴と目指すまちと暮らしの姿」「時代認識と現実の直視」「課題解決の基本的な考え方」「分野別の政策」「静岡市の魅力を活かしたまちづくり」の各章により構成します。

### 実施計画の概要

〔基本計画に基づく具体的な取組を定めるもの〕

基本計画の「分野別の政策」に掲げる「目指すべき未来像」を実現するための具体的な取組を定めるものです。

実施計画は社会経済状況の変化などを踏まえ、毎年度改定を行います。計画の期間は5年間とし、将来の5年間に予定している取組を掲載します。

あわせて中長期的な視点で、持続可能な財政運営を行うため、今後の財政見通しを示します。

## 基本計画の内容

はじめに	1. 静岡市の現状とその背景 2. 静岡市の人口減少の原因 3. 誰もが幸せに暮らせるまちにするための方法 4. 新総合計画の策定の目的
序章	「基本計画」の役割、区域、期間、構成を示す。また、基本計画の「分野別の政策」に基づき策定する「実施計画」の位置づけを明確にします。 ◆基本計画：2026年度～2035年度の10年間 ◆実施計画：将来5年間(毎年1年ずつ延伸)
第1章 静岡市の特徴と 目指すまちと 暮らしの姿	<p>&lt;静岡市の特徴&gt; 静岡市は多彩な魅力を有しています。これらの魅力を最大限活かすことで、市民一人ひとりが暮らしの豊かさと幸せを感じられるまちへと発展していくことができます。</p> <p>1. 温暖な気候や豊かな自然環境と美しい風景 2. 人の心の温かさ 3. 交通の要衝と都市機能の集積 4. 魅力ある中心市街地 5. 多様で深みのある産業力 6. 大学等の教育機関の充実</p> <p>&lt;目指すまちと暮らしの姿&gt; 静岡市の魅力を十分に活かすことにより、次のようなまちを実現します。 「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」</p>
第2章 時代認識と 現実の直視	<p>&lt;時代認識&gt; 現在の静岡市は、魅力を十分に活かせず、様々な課題に直面しています。</p> <p>1. 深刻な人口減少と暮らしへの影響 2. 「心の豊かさ」の重視 3. 地域のつながりの希薄化 4. 地域の「稼ぐ力」の停滞 5. 知能革命の進展 6. 地球環境の危機</p> <p>&lt;静岡市の人口減少問題を直視する&gt; 静岡市が抱える課題の中でも人口減少は特に深刻な問題です。静岡市が明るい未来を迎えるためには、人口減少問題を直視し、その原因を根底まで深掘りすることが必要です。 ・深刻な人口減少の状況 ・人口減少の原因 ・人口目標の考え方 ・人口減少対策について</p>
第3章 課題解決の基本的な考え方	<p>複雑化・深刻化・多様化した課題の解決は、行政だけの力では不可能であり、市民・地域社会・企業・教育機関・行政などとの「共働・共創」が不可欠です。行政は社会の力がうまく働き、共働・共創の輪が広がるよう支え、結果が出るよう伴走することが必要です。共働・共創により安心と幸せが感じられる社会の実現に向けた課題解決の基本的な考え方を次のとおり掲げます。</p> <p>1 政策形成(政策づくり)の方針 ～これまでの延長にない政策形成～ (1)人口減少の緩和と適応 (2)まちづくりの転換 (3)心の豊かさの実現 (4)地域のつながりの強化 (5)地域経済の活性化 (6)DX・GXによる社会変革</p> <p>2 政策執行(政策の実行)の方針 ～良い結果の出せる政策執行～ (1)根拠と共感に基づき共働・共創する市政 (2)社会共有資産の利活用 (3)効率的かつ効果的な行政経営</p>
第4章 分野別の政策	<p>各分野において「目指すべき未来像」を描き、未来像と現状を比べ、「現状と課題」を知り、「現状から未来像へ到達するための道筋」を考え、「具体的に何を行うか」を決めるという、バックキャスト型の方針で、どのように課題を解決していくのか具体的に示します。</p> <p>1 共生・福祉・健康 2 防災・消防・防犯 3 こども・子育て 4 教育・人づくり 5 経済・産業 6 観光・スポーツ・文化 7 都市・社会基盤 8 環境・森林 9 行政経営</p>
第5章 静岡市の魅力を 活かした まちづくり	<p>「安心な暮らし」と「幸せの実感」のためには、静岡市の魅力を活かしたまちづくりが必要です。そのためには、内外の人々が「一緒にそのようなまちを実現したい」と共感できるような未来を描き、行政・市民・企業などの多様な主体による共働・共創を推進することが欠かせません。</p> <p>(1)都市拠点&lt;静岡部心、清水部心、東静岡・草薙地区&gt; (2)産業・交流拠点&lt;宮川・水上地区、南沼上・麻機地区(中央卸売市場周辺)、貝島・折戸地区、庵原地区&gt; (3)観光拠点&lt;日本平・久能、三保・用宗、東海道「二軒八宿」&gt; (4)中山間地域&lt;オクシズ&gt;</p>
おわりに	社会全体の力による共働・共創により、静岡市が直面している課題を解決し、「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を実現することができます。

静岡市の魅力を十分に活かすことにより、次のようなまちを実現します。

## 誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち

このまちが実現したときに皆さんの暮らしはどのようになるでしょうか？

### 安心な暮らし

温かい人の心に支えられた地域の中に自分の居場所があり、人々とのつながりを深めながら、心身ともに健やかに暮らし、子育てする人は安心して子育てでき、経済的な心配や災害への不安がなく、快適な生活環境と緑あふれる空間に包まれて、心地よい暮らしができる

### 幸せの実感

学びを通じて可能性を広げたり、望む仕事に就いたり、こどもを持ちたい人はその希望が叶ったり、多彩な文化や魅力的な体験を通じて心を豊かにしたり、人との交流を深めたりすることで、誰もが幸せを実感できる

社会的な価値観は 物質的な豊かさ + 心の豊かさ へ

## 総合計画の見直しと策定の目的

第4次静岡市総合計画は、行政が行う様々な政策(施策や取組)を体系化し、アウトプット(何をするか)を中心に整理しまとめた計画でした。例えば、「道路を整備する」「施設を建設する」といった、具体的な取組の内容を列挙する形式の計画です。いわば、「政策集型」の計画といえます。

こうした計画は、行政目線で、行政が何をするかに重点が置かれています。しかし、市政で最も重要なことは、市民目線の取組により、市民の生活がどのように良くなるのかを示すことです。

よって、静岡市は、総合計画を「政策集型」から、「成果志向型」へ見直すこととしました。

「成果志向型」は、まず市民にとってどのような社会の姿が望ましいか(目指す社会)を描き、その実現に向けた政策の実行により、市民にどのような幸せや豊かさがもたらされるかという成果(アウトカム)を示すものです。

例えば、「道路の整備により、渋滞が緩和され、移動時間が短縮される」というような、市民一人ひとりの生活にどのような利益や利便(成果)があるのかを示します。

新しい総合計画は、市民にとってどのような社会が望ましいかを「目指すまちと暮らしの姿」として示し、その実現に向けて何を行うべきかを明らかにしていきます。

そして、市民・地域社会・企業・教育機関・行政が協力して、みんなで「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を共に創っていくことを目指す計画です。



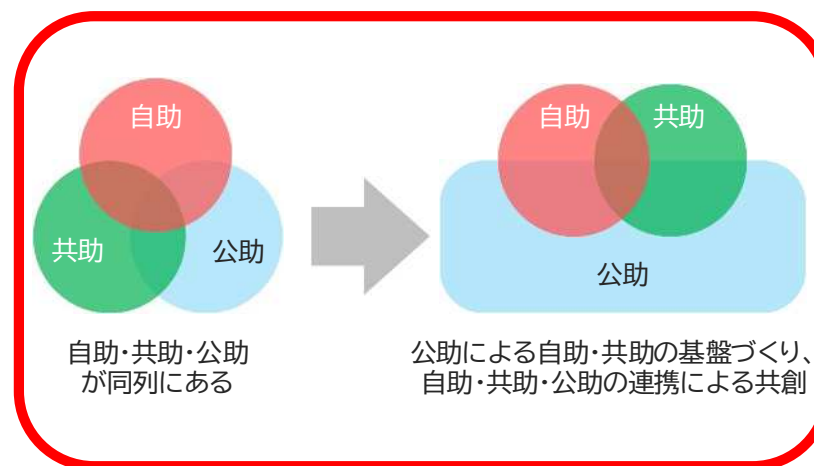
## 誰もが幸せに暮らせるまちにするための方法 ～共働・共創によるまちづくり～

ここまで、人口減少問題を主に述べましたが、静岡市が直面している問題は、**地球規模**の気候変動による災害の頻発化・激甚化、地域の稼ぐ力の停滞などにより、ますます複雑化・深刻化・多様化しています。

こうした多種多様な課題の解決のためには、行政の力だけでなく、市民・地域社会・企業・教育機関・行政など、社会全体の力による「共働・共創」が不可欠です。

例えば、災害時における安心・安全のためには、自分や家族で備え行動する「自助」、地域や近所で助け合う「共助」、行政による「公助」が不可欠です。自助・共助がしっかり行われるためには、行政が公助としてしっかりとした基盤を整えることが重要です。行政による適切な避難情報の提供や避難施設の整備によって、一人ひとりの、より適切な避難行動や地域社会での助け合いが可能となります。

このように、社会全体の力による「共働・共創」により、多種多様な課題を解決するためには、社会が力を十分に発揮できるよう、行政が仕組みや土台をつくることが重要です。あわせて、静岡市が置かれている現状や課題解決の方法・道筋を行政がわかりやすく示し、「それなら自分も課題解決のために社会のみんなと一緒に何かやってみよう」という社会の共感を得ることが重要です。



### 分野別の政策

### ⑧環境・森林

#### 目指すべき未来像

人が自然と共に生き、地域の暮らしや文化を守りながら魅力を育み、脱炭素社会の実現と経済の活性化が両立した持続可能なまち

人口減少が進む中山間地域「オクシズ」では、自然と共生する暮らしや文化が残る一方、担い手不足や高齢化による地域の活力低下が課題です。自然や文化などの地域資源が「オクシズの魅力」として広く認知され、地域資源を活かした暮らしを守りながら、人が集まる仕組みづくりが必要です。

#### 政策

### 03

(自然共生社会)自然と人との関わりを大事にし、自然の価値や地域の文化を次世代に引き継ぐことができるまちにします

#### 現状と課題

市民の自然環境の保全意識や関心は高まっているものの、保全活動の実践につながっていない。

人口減少・少子高齢化による自然環境や地域資源を活用する担い手の不足に加え、中山間地域の地域経済の停滞により、地域社会の維持が困難になっている。

#### 解決策

市民が南アルプスなどの自然と触れ合う機会を増やします。あわせて、保全活動の成果を見える化し、市民や企業、地域団体など多様な主体が協力し合うネットワークを形成します。これらにより、ミズナラなどの植樹や防鹿柵設置など自然再生に向けた活動を通じて、継続的に環境保全へ参加できる仕組みを整えます。

自然の持続性を損なわない暮らしの価値や魅力を発信し、これに共感して集まる移住者や地域おこし協力隊とともに、豊かな自然環境や地域資源の魅力を活かした仕事を創出し、定住できる仕組みを整えます。

### 第5章 静岡市の魅力を活かしたまちづくり

「安心な暮らし」と「幸せの実感」のためには、静岡市の魅力を活かしたまちづくりが必要です。そのためには、内外の人々が「一緒にそのようなまちを実現したい」と共感できるような未来を描き、市民・企業・行政などの多様な主体による共働・共創を推進することが欠かせません。そして、このようなまちづくりは、地域の稼ぐ力の向上にもつながっていきます。

「オクシズ」は、静岡市内の中山間地域を総称する呼び名です。豊かな自然と美しい景観に恵まれ、歴史ある風習や祭事が今も息づき、わさびや茶など地域特性を活かした農林産物や在来作物が育まれています。

「オクシズ」を単なる呼称にとどめず、自然域共生主義による地域づくりの地として住みたい、訪れたいと感じられる地域にします。自然域共生主義とは、自然と人間の相互関係を大切にし、土地の特性や自然の持続性を損なわない生活様式を再構築していこうという考え方です。

そのために、オクシズの各地区における人と自然との関わり、歴史や産品などの多様な地域資源を社会に提示し、その価値が見える化することで、オクシズ全体があたかも博物館のように感じられる地域としていきます。

これにより、オクシズの魅力を高め、地域に暮らす人には、さらなる誇りを持てるようにするとともに、オクシズを、自然域共生主義の暮らしを送りたいと考える人に定住の地として選ばれる地域としていきます。

# オクシズ

## オクシズ地域おこし計画の見直しについて

- 現計画期間も中盤を迎えており、オクシズを取り巻く状況の変化や計画の進捗状況から目標や指標を再設定する時期を迎えている。
- 総合計画（上位計画）が新たに策定されたことで、総合計画と整合のとれたオクシズ地域おこし計画としたい。

### 方針

静岡市総合計画の構想に共鳴するオクシズ地域おこし計画へ。

⇒ 静岡市総合計画における考え方は“機能強化”に加え“価値転換”

⇒ 課題解決には、行政を含む  
市民・地域社会・企業・教育機関など  
社会全体の力による「協働・共創」が必要

オクシズ地域おこし計画にも、

**“価値転換”の視点** **協働・共創の仕組み**をつくる施策を加える

# 『価値の転換』事例 徳島県 上勝町 (ゼロ・ウェイスト)

- 高度経済成長期以降、野焼きでゴミ処理をしていたが、法規制や環境問題から、野焼きが続けられなくなる。町が小型焼却炉を導入するも、ダイオキシン問題により、焼却炉はわずか3年で使用できなくなった。
- 法規制や財政上の理由から、「多分別」という道を本格的に進み始める。  
2003年「ゼロ・ウェイスト (ごみゼロ) 宣言」  
2001年に33分別、2016年には45分別、リサイクル率は80%に至る。
- 個人による分別以外に、民間事業所によるごみになるものを減らす取組も推進。  
事業所の頑張りを多くの人に知ってもらうため、町はゼロ・ウェイスト認証制度を始めた。
- 事業所の取組を見える化することにより、上勝町のゼロ・ウェイストを学びに来た人たちがお店に足を運び、移住・起業という経済効果も生まれている。
- ゴミ処理というサービスがない状態⇒分別が生活に欠かせない⇒ゼロ・ウェイストが評価されることを知る⇒ゼロ・ウェイストを推進・発信する⇒地域が活性化



©NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー



©上勝町



©上勝町



©上勝町

## オクシズ地域おこし計画の見直しスケジュール（予定）

2026. 3月	計画見直し方針の確認（本日）
	事務局にて見直し原案作成
2026. 7月	第1回オクシズ地域おこし計画推進協議会 見直し原案について意見聴取
2026. 12月	パブリックコメントの実施
2027. 2月	第2回オクシズ地域おこし計画推進協議会 見直し最終案に関する意見聴取
2027. 4月	見直し版計画のスタート